

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 小田原市

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在の人口：190,126人（2019年11月）、将来：175,477人（2030年）、158,299人（2040年）  
（出典：小田原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（平成30年10月））
- 小田原市環
  - 環境保全活動団体数 現状：153団体（2017年）→目標：150団体（2022年）
  - 市全体の二酸化炭素排出量 現状：977千t（2015年）→目標：869.2千t（2020年）
  - 小田原市森林整備面積 現状：122ha（2017年）→目標：150ha（2020年）

②具体的なアクション

- コアとなる3つの事業
  - ①「おだわら森里川海」イノベーション事業  
森里川海などの地域課題解決に資する事業（コンテンツ）の創出及びオープンイノベーションの場づくり
  - ②「おだわら森里川海」ブランドマーケティング事業  
コンテンツを統一コンセプトで束ね、複合的に価値を高められるブランディングによる利用（消費）拡大
  - ③「おだわら森里川海」プロモーション事業  
脱炭素型地域交通モデル構築事業（EVカーシェア事業）と連携し、コンテンツをつなぐ2次交通として活用  
MaaS連携などによる、都市域などのターゲットへの効果的な訴求、プロモーション
- その他の個別事業
  - ・湘南電力「小田原市応援プラン」の創設・運用  
地域貢献メニュー（地域課題解決の取組）の提案、事前受付開始
  - ・竹プロジェクト  
放棄竹林解消（竹の伐採）・伐採竹の活用（竹炭の段ボールコンポスト利用、藤棚の部材）等

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	既存の環境保全活動	放棄竹林の新たな活用事例数	0	1		件
		鳥獣捕獲頭数	846	1,326		頭
	脱炭素型地域交通の導入	EVカーシェアリング利用件数	0	100		件
		財源確保	事業に協力する企業・団体数	0	3	
経済	ブランディング	認定コンテンツ数	0	5		件
	地域新電力による地域貢献活動	小田原市応援プランメニュー数	0	1		件
	新事業・プロジェクトの創出	新事業・プロジェクト数	0	3		件
社会	小田原への関心度	若者（～30代）の参加者数	0	10		人
		市外からの参加者数	0	30		人
	交通手段の脱炭素化	EVカーシェアリング利用件数	0	100		件
全体	人材育成	キープレイヤーの発掘	0	2		人
	ブランディング	認定コンテンツ数	0	5		件
	新事業・プロジェクトの創出	新事業・プロジェクト数	0	3		件

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

ビジョン達成のためには、地域資源を最大限活用すること、課題解決に関わる人や資金が循環することが必要である。このため、コンソーシアムにおけるディスカッションやそれを包括した新事業研究会等により、企業連携の下地作り、既存の取組・事業のブラッシュアップ、新たな取組・事業の創出、人材育成（発掘）等を行ってきた。

来年度実施予定のコアとなる3つの事業では、これらの実績を有機的に結び付け、相乗効果をもって地域資源の最大限活用するものであり、継続的・発展的な事業創出、ブランディング及びマーケティングによる利用（消費）拡大・販路拡大を図ると同時に、脱炭素社会への歩みも進めていく。また、この一連の取組自体が分野横断的なものとして捉えているため、設定した各指標はどの分野にも密接に関わるものであると考えている。なお、短期と長期指標の関係性は3つの事業を進める上で期待される波及効果などを見込んだものである。

①目指すべき姿

- 地域資源を磨き上げ、より豊かな状態で次世代へと受け継ぎ、生かす小田原

→

当地域が有する、森里川海がひとつの豊かな自然環境、地域エネルギー、地勢（交通網）、歴史・文化等の地域資源を活かし、地域課題の解決が経済的に循環する取組を創出し、人と資金を循環させることで、豊かな自然や環境の保全・充実を通じた「いのちを守り育てる地域自給圏」を形成する。

- ・森里川海などの地域資源に新たな価値を生み出す事業（コンテンツ）を創出する。
- ・地域エネルギー事業等を介して、コンテンツに地域内外から人・資金を循環させることで、再生可能エネルギーの普及促進と、自然環境の保全・活用の推進を図る。
- ・以て、地域資源の活用が持続可能となり、目指すべき姿を達成する。

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	横断的な課題解決	放棄竹林解消面積	0	1,000	2030年度	5,000	m <sup>2</sup>
		農業被害件数	152	150	2030年度	100	件
	脱炭素型交通の普及	コアシサン飛来確認数	130	140	2030年度	190	羽
		運輸部門の二酸化炭素排出量	242,542	207,500	2030年度	207,500	t-
経済	財源確保	事業等への協賛金額	0	100	2030年度	500	千円
	ブランディング	コンテンツ利用（消費）による収入金額	0	100	2030年度	2,000	千円
	地域新電力による地域貢献活動	小田原市応援プランによる還元金額	0	100	2030年度	500	千円
社会	小田原への関心度	若者（30代）の活動者数	0	5	2030年度	20	人
		人口の社会減	148	0	2030年度	0	人
	交通手段の脱炭素化	自動車保有台数	112,078	110,284	2030年度	101,318	台
全体	取りまとめ機能の創出	拠点となる事務所の設置	0	1	2030年度	1	箇所
	ブランディング	コンテンツ候補数	0	5	2030年度	10	件